

浜の活力再生プラン (第2期)

1 地域再生委員会 浜プランID: 1102028

組織名	野牛地域水産業再生委員会
代表者名	会長 三國 優 (野牛漁業協同組合 代表理事組合長)

再生委員会の構成員	野牛漁業協同組合、東通村つくり育てる農林水産課、青森県下北地域県民局地域農林水産部むつ水産事務所
オブザーバー	—

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	青森県下北郡東通村野牛地区 漁業者数 40名 いか釣漁業 30 経営体 一本釣り漁業 6 経営体 定置・底建網 4 経営体
-------------------	---

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

当地区は、三方を海に囲まれた下北半島の中でも津軽海峡に面した北辺に位置し、古くから漁業基地として栄え、夏は太平洋より冷たいヤマセが吹き上げ、冬も寒風が吹き下ろし、海が荒れやすい厳しい気候風土である。地区の基幹産業は水産業であり、なかでもスルメイカ等を対象としたいか釣漁が中心である。地区の過去平均5年間の水揚げ量は、数量641トン、金額で3億4千万円ほどで、うちスルメイカの水揚げ量は470トン、金額2億4千万円となっており、その他にサケ、ヒラメ、カレイ類、タコの水揚げと、地撒きホタテガイがある。

しかしながら、近年、主要魚種であるスルメイカの漁獲量の減少、加えて燃油高や資材高騰などによる経営コストの増加により水産業を取り巻く環境は非常に厳しい状況である。

(2) その他の関連する現状等

近年は、漁業後継者不足による漁業者の高齢化と漁撈機材の老朽化から漁業生産への影響も懸念されているほか、築地から豊洲への市場移転による流通の変化に伴う魚価の変動も懸念される。加えて当地区の流通の要である水産物荷捌施設等及び加工施設は経年劣化による機能低下が著しく持続可能な水産業の推進を図るため更新整備を進めているところである。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

--

(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

地域の基幹産業である漁業を維持していくため、野牛地区の主力である小型イカ釣漁業並びに小型定置網・底建網漁業、一本釣等の振興を図ると共に、効率的で安定的な漁業経営が行われるよう、次の活動に取組み地域の活性化を図る。

- 1) 野牛漁協が中心となって整備計画中である衛生管理型水産物流通荷捌施設、海水処理施設及び漁業

<p>作業等軽労化機能整備等を十分に活用した出荷の早期化等、漁獲物の水産加工等により高付加価値化を目指す。</p> <p>(小型イカ釣漁業、小型定置網・底建網漁業、一本釣漁業)</p> <p>2) 良好なサケ海産親魚供給等によるサケ回帰資源の増大を目指す。</p> <p>(小型定置網・底建網漁業)</p> <p>3) 漁業用燃油経費の削減を継続し、漁業経営の効率化・安定化を目指す。</p> <p>(小型イカ釣漁業、小型定置・底建網漁業、一本釣漁業)</p>
--

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

<p>漁業協同組合の共同漁業権行使規則及び行使計画により、漁業期間、漁業の方法、漁獲サイズ等を制限しているほか、県資源管理に指針に基づく資源管理計画を策定し、休漁日を設定するなど資源保護に努めている。</p>
--

(4) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1 年目（令和2年度）

以下の漁業収入向上の取組及び漁業コスト削減の取組により、基準年から2.1%の所得向上を図る。

以降、以下の取組内容は、取組の進捗状況や得られた知見等を踏まえ、必要に応じて、見直すこととする。

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>1) 衛生管理型水産物流通荷捌施設等を活用した水産物の高付加価値化</p> <p>野牛漁協は、衛生管理型水産物流通荷捌施設、海水処理施設及び漁業作業等軽労化機能整備等の整備のため、村の支援を受けて実施設計と仮設の荷捌き施設の整備を行い、小型イカ釣漁業者、小型定置・底建網漁業者及び一本釣漁業者は、同施設の機能を十分に活用するために、漁業協同組合等が開催する高付加価値化に向けた意識の醸成を目的とした衛生管理講習会や鮮度保持講習会等を受講し、以下の活動に取組む。</p> <p>①小型イカ釣漁業者は、高付加価値化に向けて漁獲物の迅速な箱詰め（迅速な施氷作業と出荷時期に応じた施氷量の調整による低温管理（5℃以下）を含む）とイカ活締め器（商品名「イカ活チャ器」）を用いた鮮度保持の徹底に取組むとともに、溶解水によるイカの体色変色を防止するため、箱の底部に水抜き穴のついた発泡スチロール箱を利用して白色化を抑制し、魚箱にシートを被せ保冷性を高めるよう努める。また、従前の昼イカ釣による漁獲物は、関東以南の主要消費地市場入荷が漁獲後二日目朝であったことから、従前品よりも高鮮度・高品質品の出荷ができるよう、主要消費地市場のセリに間に合わせるために漁船入港時間の早期化等を検討する。</p> <p>②小型定置・底建網は活魚出荷量を増加させるため、魚槽内の水質・水温や魚槽に収容する活魚選別と収容密度の管理を徹底する。</p> <p>③漁協は、マボヤに代表される長期間鮮度維持が困難な水産資源を有効に消費に結びつけるため、調味加工により各種水産物の付加価値向上を向上し、漁業収入の増加を図る。</p> <p>2) 良好なサケ海産親魚供給等によるサケ回帰資源の増大</p> <p>④定置・底建網漁業者は、サケふ化放流事業を実施する近隣のふ化場に対し、定置網でとれる成熟（ブナ化）が進み、傷の少ない、3kg以上の良好なサケ成魚を海産親魚として供給し、種苗生産・放流数の安定化を図るとともに、河川環境改善のため上流部への植樹を行うことで、サケ回帰資源の増大による漁業所得の向上を図る。</p> <p>⑤定置・底建網漁業者は、サケ回帰率の向上を図るため、海中生簀を利用して、サケ稚魚の適正飼育・適期適サイズ放流を行う。また、飼育放流結果から課題点を検証し、次年度の飼育放流に反映させる。</p>
<p>漁業コスト削減のため</p>	<p>1) 船底清掃及び減速航行の実施</p> <p>全漁業者は、船底、舵及びプロペラ等を洗浄・研磨するなど船底清掃等を実施</p>

の取組	し、航行時の船体に係る抵抗を削減するとともに、漁船の減速走行に努めることにより、消費燃料の削減を図る。
活用する支援措置等	村補助事業

2年目（令和3年度）

以下の漁業収入向上の取組及び漁業コスト削減の取組により、基準年から2.1%の所得向上を図る。

漁業収入向上のための取組	<p>1) 衛生管理型水産物流通荷捌施設等を活用した水産物の高付加価値化 野牛漁協は、国、村の支援を受けて衛生管理型水産物流通荷捌施設、海水処理施設及び漁業作業等軽労化機能整備等の整備を実施し、小型イカ釣漁業者、小型定置・底建網漁業者及び一本釣漁業者は、同施設の機能を十分に活用するために、漁業協同組合等が開催する高付加価値化に向けた意識の醸成を目的とした衛生管理講習会や鮮度保持講習会等を受講し、以下の活動に取り組む。</p> <p>①小型イカ釣漁業者は、漁獲物の迅速な箱詰めとイカ活締め器を用いた鮮度保持の徹底に取り組む。また、漁船入港時間の早期化等を検討する。</p> <p>②小型定置・底建網は活魚選別と収容密度の管理を徹底する。</p> <p>③漁協は、加工品製造により水産物の付加価値を向上し、漁業収入の増加を図る。</p> <p>2) 良好なサケ海産親魚供給等によるサケ回帰資源の増大 ④定置・底建網漁業者は、サケ海産親魚供給により、種苗生産・放流数の安定化を図るとともに、河川上流部への植樹を行うことで、サケ回帰資源の増大による漁業所得の向上を図る。</p> <p>⑤定置・底建網漁業者は、海中生簀を利用して、サケ稚魚の適正飼育・適期適サイズ放流を行う。また、飼育放流結果から課題点を検証し、次年度の飼育放流に反映させる。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>1) 船底清掃及び減速航行の実施 全漁業者は、船底清掃等により、航行時の船体に係る抵抗を削減するとともに、漁船の減速走行に努めることにより、消費燃料の削減を図る。</p>
活用する支援措置等	村補助事業

3年目（令和4年度）

以下の漁業収入向上の取組及び漁業コスト削減の取組により、基準年から5.6%の所得向上を図る。

漁業収入向上のための取組	<p>1) 衛生管理型水産物流通荷捌施設等を活用した水産物の高付加価値化 小型イカ釣漁業者、小型定置・底建網漁業者及び一本釣漁業者は、前年に野牛漁協が整備した衛生管理型水産物流通荷捌施設、海水処理施設及び漁業作業等軽労化機能整備等の機能を十分に活用するために、漁業協同組合等が開催する高付加価値化に向けた意識の醸成を目的とした衛生管理講習会や鮮度保持講習会等を受講し、以下の活動に取り組む。</p> <p>①小型イカ釣漁業者は、漁獲物の迅速な箱詰めとイカ活締め器を用いた鮮度保持の徹底に取り組む。また、漁船の早期入港を試行する。</p> <p>②小型定置・底建網は活魚選別と収容密度の管理を徹底する。</p> <p>③漁協は、加工品製造により水産物の付加価値を向上し、漁業収入の増加を図る。</p>
--------------	---

	<p>2) 良好なサケ海産親魚供給等によるサケ回帰資源の増大</p> <p>④定置・底建網漁業者は、サケ海産親魚の供給により、種苗生産・放流数の安定化を図るとともに、河川上流部への植樹を行うことで、サケ回帰資源の増大による漁業所得の向上を図る。</p> <p>⑤定置・底建網漁業者は、海中生簀を利用して、サケ稚魚の適正飼育・適期適サイズ放流を行う。また、飼育放流結果から課題点を検証し、次年度の飼育放流に反映させる。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>1) 船底清掃及び減速航行の実施</p> <p>全漁業者は、船底清掃等により、航行時の船体に係る抵抗を削減するとともに、漁船の減速走行に努めることにより、消費燃料の削減を図る。</p>
活用する支援措置等	水産業強化支援事業

4年目（令和5年度）

以下の漁業収入向上の取組及び漁業コスト削減の取組により、基準年から10.7%の所得向上を図る。

業収入向上のための取組	<p>1) 衛生管理型水産物流通荷捌施設等を活用した水産物の高付加価値化</p> <p>小型イカ釣漁業者、小型定置・底建網漁業者及び一本釣漁業者は、野牛漁協が整備した衛生管理型水産物流通荷捌施設、海水処理施設及び漁業作業等軽労化機能整備等の機能を十分に活用するために、漁業協同組合等が開催する高付加価値化に向けた意識の醸成を目的とした衛生管理講習会や鮮度保持講習会等を受講し、以下の活動に取組む。</p> <p>①小型イカ釣漁業者は、漁獲物の迅速な箱詰めとイカ活締め器を用いた鮮度保持の徹底に取組む。また、漁船の早期入港を試行する。</p> <p>②小型定置・底建網は活魚選別と収容密度の管理を徹底する。</p> <p>③漁協は、加工品製造により水産物の付加価値を向上し、漁業収入の増加を図る。</p> <p>2) 良好なサケ海産親魚供給等によるサケ回帰資源の増大</p> <p>④定置・底建網漁業者は、サケ海産親魚の供給により種苗生産・放流数の安定化を図るとともに、河川上流部への植樹を行うことで、サケ回帰資源の増大による漁業所得の向上を図る。</p> <p>⑤定置・底建網漁業者は、海中生簀を利用して、サケ稚魚の適正飼育・適期適サイズ放流を行う。また、飼育放流結果から課題点を検証し、次年度の飼育放流に反映させる。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>1) 船底清掃及び減速航行の実施</p> <p>全漁業者は、船底、舵及びプロペラ等を洗浄・研磨するなど船底清掃等により、航行時の船体に係る抵抗を削減するとともに、漁船の減速走行に努めることにより、消費燃料の削減を図る。</p>
活用する支援措置等	

5年目（令和6年度）

以下の漁業収入向上の取組及び漁業コスト削減の取組により、基準年から14.2%の所得向上を図る。

漁業収入向上のための取組	<p>1) 衛生管理型水産物流通荷捌施設等を活用した水産物の高付加価値化</p> <p>小型イカ釣漁業者、小型定置・底建網漁業者及び一本釣漁業者は、野牛漁協が整備した衛生管理型水産物流通荷捌施設、海水処理施設及び漁業作業等軽労化機能</p>
--------------	--

	<p>整備等の機能を十分に活用するために、漁業協同組合等が開催する高付加価値化に向けた意識の醸成を目的とした衛生管理講習会や鮮度保持講習会等を受講し、以下の活動に取り組む。</p> <p>①小型イカ釣漁業者は、漁獲物の迅速な箱詰めとイカ活締め器を用いた鮮度保持の徹底に取り組む。また、漁船の早期入港を実施する。</p> <p>②小型定置・底建網は活魚選別と収容密度の管理を徹底する。</p> <p>③漁協は、加工品製造により水産物の付加価値を向上し、漁業収入を増加させる。</p> <p>2) 良好なサケ海産親魚供給等によるサケ回帰資源の増大</p> <p>④定置・底建網漁業者は、サケ海産親魚により種苗生産・放流数の安定化を進め、河川上流部への植樹を行うことで、サケ回帰資源の増大による漁業所得の向上を図る。</p> <p>⑤定置・底建網漁業者は、海中生簀を利用して、サケ稚魚の適正飼育・適期適サイズ放流を行う。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>1) 船底清掃及び減速航行の実施</p> <p>全漁業者は、船底清掃等により航行時の船体に係る抵抗を削減するとともに、漁船の減速走行に努めることにより、消費燃料の削減を図る。</p>
活用する支援措置等	

(5) 関係機関との連携

<p>青森県水産振興課・漁港漁場整備課やむつ水産事務所、(地独)青森県産業技術センターの水産総合研究所・下北ブランド研究所等から指導を受け、年度毎に漁業所得の向上面について、定量的に分析・評価を行う。また、問題点については原因を調査し、解決に向けた課題整理を行う。</p>
--

4 目標

(1) 所得目標

漁業所得の向上 10%以上	基準年	平成26年度～平成30年度(5中3平均) : 漁業所得(1経営体当たり)円
	目標年	令和6年度: 漁業所得(1経営体当たり)円

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

別添資料参照

(3) 所得目標以外の成果目標

鮮度保持による スルメイカ・ヒラメ・アイナメ・ サクラマス平均 単価向上	魚種	基準年(平成26年度～平成30年度5中3平均)	目標年(令和6年度)
	スルメイカ	518円/kg	549円/kg
	ヒラメ	920円/kg	939円/kg
	アイナメ	1,073円/kg	1,094円/kg
	サクラマス	1,290円/kg	1,316円/kg

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

別添資料参照

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
浜の活力再生・成長促進交付金（水産業強化支援事業）	衛生管理型水産物流通荷捌施設、海水処理施設及び漁業作業等軽労化機能整備